



岡田 治道 水産部門（水産土木）

勤務先：北海道渡島支庁函館土木現業所

土木技術者になったきっかけは、中学2年の時に、サハラ砂漠を測量する日本人技術者を扱ったテレビ番組を見たことである。日本より広い砂漠を、一人で黙々と測量する姿が今でも印象に残っている。“将来の仕事はこれだ”と土木工学を専攻したが、測量以外の土木技術を知るに従い夢は咲き乱れた。結局、昭和50年に北海道に就職し、希望とは違う漁港関係に配属となり、海との付き合いが本格的になった。

現在の海に対する印象は、“海は、すごい”である。先日、道南技術士協議会で、函館開発建設部の北原築港課長（次回の、このコーナーで登場）のご協力により、昨年の台風18号で被災した函館港の島防波堤を見学させていただいた。やはり、“海はすごい、不可解”である。この海の中に漁港や海岸構造物を建設するには、“海の機嫌を損ねないように、おごりを避け、ひたすら気に入られるように”することと思っている。海に対する人類の知見はまだまだ浅いのが現状である。

さて、今年の3月で勤続30年となった。その間に維持管理や用地調査などの漁港関係以外の業務を7年経験した。特に、維持管理では、土木技術者としての本来あるべき姿を感じることができた。また、用地調査の業務では、基準点や土地の境界が生き物であることを知った。この間、多くの人にお世話になり、感謝に絶えないしだいである。今後は、自分の技術力の向上はもとより、諸先輩から教えていただいた知識を少しでも多くの後輩に伝えていくことが土木技術者である自分の勤めであり、課題と思っている。



次号は、北原繁志さん（建設／水産／総合技術監理部門）



坂野 雅人 建設部門（河川、砂防及び海岸）

勤務先：北海道建設部建設管理室技術管理課技術管理グループ

E-mail：banno.masato@pref.hokkaido.jp

本年4月より、上記職場で、主に建設リサイクルの関係や品確法などの対応に当たっています。1994年（平成6年）の一般論文で、ゼネコン汚職に絡んで入札について出題されそうだと予想して、入札制度に関して勉強した思い出があり、現在、品確法の関係で総合評価方式の拡大という入札の課題に取り組んでいるのもなんだか不思議な巡りあわせだなあと感じています。

これまで海岸、道路、橋梁、公園、下水道と様々な分野に関わってきましたが、考え方の原点は、技術士の専門分野である海岸関係の業務で身につけたものであり、これを活かして、今後も様々な課題に取り組んでいきたいと思っています。

3年前に自宅を建てて以来、庭づくりと木工が趣味となっています。土を掘っては、土量変化率を実感し、レンガ積みなどで、モルタルやコンクリートを練ってはワーカビリティを実感し、ウッドデッキを作っては、鋸をまっすぐ引くというのはいかに難しいかを実感した次第です。今春は、小学校1年生の子どもに勉強机を作り、木工の奥深さを感じながら、鉋かけが楽しくなってきたところです。いつか、カヌーを作って、釧路川を下ってみたいなあと思えるこの頃です。



次号は、佐々木誠也さん（建設部門）